

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 モラゴダゲ アルニ プリヤンガ デ ピント ウィックラマラン

本研究は、スリランカの製茶工場経営における企業家志向（**Entrepreneurial Orientation : EO**）の機能とメカニズムを、低産地における実態調査によって収集した経営データを基にした計量分析と代表的企業の事例分析によって明らかにした。スリランカにおいて茶は主要な輸出農産物であるが、近年、世界市場における激しい競争の下で、その競争力が低下しており、イノベーションによる茶産業の競争優位の実現が喫緊の課題となっている。一般に、産業の競争力を向上するにはイノベーションの創出や採用が必要であるが、企業の革新性、積極性、リスクテイキング行動の3つの次元からなる **EO** が、イノベーションの実現に大きな役割を果たすと考えられる。そこで、本研究では実証的経営研究の手法を基に、スリランカの茶産業の **EO** の規定要因と **EO** がイノベーションを創出し、競争力の向上に寄与するメカニズムを提示した。

第1章では、研究の背景と目的について、スリランカの社会経済的状況に即して説明するとともに、**EO** に関する既往研究のサーベイを通じて、**EO** の基本的な概念と理論、および本研究における分析の枠組みを提示した。

第2章では、スリランカの茶産業における部門構成、取引・流通の構造、経済成果、生産性、生産コスト、価格、製品特性、ならびに研究対象地域である低産地の地域特性について解説した。

第3章では、研究対象とする 109 社の製茶工場経営の経営概況、実態調査に基づいて作成した **EO**、コンピテンシー、および経営に関する主要変数、およびそれらの特性について説明した。

第4章では、製茶工場経営の **EO** の外部要因について分析した。製茶工場経営の経営外部との関係強化が **EO** を向上させるという仮説の下で計量分析を行った結果、原料供給業者・流通業者や政府支援機関との関係は **EO** を高める効果があるが、他の製茶工場経営や教育・研究機関との関係は **EO** に影響しないことが明らかとなった。

第5章では、**EO** の内部要因として、**EO** 戦略の実施に対する経営者のコンピテンシーの影響について分析した。6つのコンピテンシー領域（機会、組織、戦略、関係、コミットメント、概念）を設定し、コンピテンシーの各領域と **EO** の次元との対応関係を計量的に解明した。また、経営者要因のうち、トレーニングや他のビジネスの経験が経営者のコンピ

テンシーに寄与すること、さらに、経営者の属性は直接には EO に影響しないことが明らかとなった。一方、EO は戦略的コミットメント能力によって改善するとともに、EO の次元のうち、革新性と積極性が概念的コンピテンシーとコミットメント・コンピテンシーによって強化されることが示された。

第6章では、製茶工場経営の EO がイノベーションに与える影響について分析した。EO の各次元と採用するイノベーションのタイプとの関係を計量的に明らかにした。イノベーションの採用割合は、市場イノベーションはプロセス・イノベーションやプロダクト・イノベーションに比して低いこと、また、需要側要因の方が供給側要因よりも強い影響を与えていることを明らかにした。

第7章では、代表的な6社の製茶工場経営の実態調査分析を行った。競争力を高めるための主要な戦略は量的な戦略と質的な戦略の2つに大別されることを示すとともに、競争力に影響を与える要因を総括的に取り入れたモデルを想定し、経営外部との関係、コンピテンシー、EO、およびイノベーションが経営の競争力に与える影響を明らかにした。

第8章では、以上の分析を基にスリランカの茶産業の競争力強化のための政策提言を行った。

本研究の貢献は以下の3つである。第一に、経済開発の過程で、スリランカの茶産業における EO とイノベーションを強化することによって競争力を向上させるための実践的かつ総合的なアプローチを提案したことである。第二に、実際の経営活動において競争力の規定要因を実証的に解明していることである。そして第三に、企業家精神のメカニズムを解明し、企業家精神研究を前進させる結果を得ていることである。

これらの研究成果は、学術上応用上寄与するところが少なくない。よって、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。